

## パネルディスカッション～ろう学生からみたサービス～

司会：ディズリーさん

ミノル氏 / R I T 卒業。日本出身。

ケリー氏 / N T I D からラガーディアン大学に編入。ジャマイカ出身。15歳の時にアメリカへ。法律関係を専攻。

エマニエル氏 / ニューヨーク大学卒業。ヨーロッパ史専攻。

ジョーン氏 / N T I D からラガーディアン大学に編入。両親は中国からの移民者でアメリカ生まれ。ろう学校卒業。コンピュータ科学専攻。

スラバニア氏 / ハンター大学卒業。ロシア出身。社会学専攻心理学副専攻。

リチャード・ヘレン氏 / ハンター大学院生。ろう者と難聴者のためのプログラムに所属。

司会 / 私たちが提供しているサポートサービスについてなにか話してください。

リチャード氏 / 私は以前、マーフィーカレッジにいた。健聴の学生がいる大学だが、そこで通訳などのサービスを使っていた。専攻は行動科学。その後、現在の大学院に移り、サポートサービスを受けながら勉強している。

スラバニア氏 / ロシアから初めてアメリカに来たとき、私には言語がなかったので、すごく助けが必要だった。だから、ラガーディア大学に入ったとき、いろいろなサポートを受けて、外国語から英語に直すようなトレーニングを受けました。2年間で準学士を取得する間にチューターの使い方、ノートテイクの使い方、通訳の使い方なども学んだ。

その後ハンター大学で学士の勉強をした。そこでも通訳やチューターのサービスを受けた。それはすばらしい経験だったし、最終的には卒業後に仕事を得ることもできた。すばらしい経験になっている。

司会 / ここに来たときに言語がないといていたが、それは正しいこと？

スラバニア氏 / 私の場合は英語もしゃべれないし、アメリカ手話も知らなかった。言ってみれば本当に言語がなかった。

司会 / アメリカに来たときに英語とアメリカ手話は知らなかったけれど、ロシア語とロシア語の手話は知っていたのだから、そのことは伝えておかないとね。

ミノル氏 / 手話通訳の場合、講義内容だけでなく、文字だけでは伝わらない先生の表情や感情が伝わってきた。

エマニエル氏 / ニューヨーク大学にいて、チューターや通訳、ノートテイクなどのサービスを受けたが、私の場合は、外国へ行く特別なコースを取っていたので、ちょっと状況が違っていた。私の場合はパリに行く必要があったので、フランス語とASLが出来る通訳者を探す必要があった。このように、ろう学生一人一人の必要性や通訳者は異なっていると思う。

ケリー氏 / 私の場合、高校はろう学校で、つまり教員もみな手話ができるからコミュニケーションは簡単だった。大学に入学してから、メインストリーミングなので、クラスの中でろう者は私一人

という立場で、初めて情報が間接的に伝わってくる状況に置かれた。そこで初めて通訳の使い方を学び、サービスを受けるようになった。

ジョーン氏/私は、高校を卒業後、NTIDに入ったが、そこでは満足が得られずニューヨークに戻ってきた。新たに大学に戻るにあたって、ろう者に対するプログラムがある大学を探し、その結果、見つけたのがラガーディア大学だった。ここは、ろう者に対するサポートプログラムがしっかりしているので満足している。

司会/メインストーリーミングの大学で学ぶにあたり、最大の課題、チャレンジは何ですか？

エマニエル氏/いくつかある中で一つは、直接的なコミュニケーションの問題。私はずっとろう者として手話を使って直接的なコミュニケーションに慣れていて、ギャローデット大学にも行ったことがある。しかしニューヨーク大学に編入したときには、クラスの中でろう者は私一人、初めて間接的なコミュニケーションを経験してカルチャーショックであった。通訳に頼らなければならない初めての経験だった。直接的なコミュニケーションが取れるか取れないかが一番のチャレンジ。二つ目は、さきほど言ったフランス語を学ぶにあたって起きたチャレンジ。通訳を通してどのようにフランス語を学ぶかが課題。ギャローデット大学では筆記で学んだが、ニューヨーク大学はメインストーリーミングなので、音声を頼りに学ぶわけで、通訳を介して外国語を学ぶことがチャレンジだった。

スラバニア氏/ロシアの大学ではファッションを学んでいた。ろう者は私1人で、サポートサービスはなく、孤独だった。アメリカに来ていろいろサービスがあることを初めて知り、びっくりした。ロシアでは通訳がなかったので、学生とのコミュニケーションはとれなかった。アメリカでは健聴の学生と一緒に参加できるようになり、平等になったことが一番大きいこと。

ミノル氏/RITには、ろう学生が大勢いるので安心できると思っていたが、通訳を頼むことが差別的に見られることがあった。

ケリー氏/通訳を使えるようになったことが一番。ジャマイカの手話は、BSLでしたが、アメリカに来て、ASLを2カ月で習得することでサービスを受けることが出来るようになった。

リチャード氏/聴覚障害のことを教員に理解してもらうために、私が説明しなければならなかった。

ジョーン氏/NTIDでは、健聴の教員とのコミュニケーションも手話で問題がなかったが、ラガーディア大学に来て、手話を知らない先生とのコミュニケーションが問題だった。早口だったり、トピックが次々に出てきて質問したいときに通訳を介するとタイムラグが生じる。通訳者も教員も忍耐が必要だ。

司会/クラス以外のカリキュラムなどで、ろう学生同志が交流する機会はありますか？

ケリー氏/ラガーディア大学のろう者のASLクラブに、参加している。SACとも話し合いをしている。

スラバニア氏/大学時代は、組織の代表をやっていた。ろう文化やろう教育などについてディスカッションをしたり、通訳養成などサービス向上については、カウンセラーと話し合いをした。

エマニエル氏 / あまり参加していない。手話を知らない教員や友人にASLを教えた。

リチャード氏 / NTIDの前にギャローデット大学では、地域貢献をするクラブで活動した。今はASLを教えている。

ミノル氏 / 昨年「ろう国際学生協会 (DISA)」を立ち上げました。

ジョーン氏 / /メトロポリタン・ろう協会に参加。ニューヨークとニュージャージーのろう学生が70人ほど集まったことがある。

司会 / それぞれの大学で一番良いところは？

ケリー氏 / チャレンジ、多様性。卒業後社会に出て、健聴者に囲まれて生活するときに、自分自身の守り立て方を学んだ。

スラバニアさん / 社会学と心理学を学んだが、難しいコースだった。ろう者として学ぶ中で健聴者と平等であることを学んだ。ソーシャルワーカーとして、仕事をするときに、学んだことが活かされると思う。

ジョーン氏 / 通訳と関係をもてた。そのことから健聴者とのコミュニケーションが出来て、たくさんのことを学んだことが一番良かった。

エマニエル氏 / ギャローデット大学で自分自身がすごく成長した。ニューヨーク大学で学力が成長し、パリに行くことが出来た。

リチャード氏 / 1つはギャローデット大学。大勢のろう者と出会い、手話のスタイルを知った。2つめはNTID。健聴者が多くいる環境で、テクニカルの勉強をし、世の中とは何かを知った。3つめはマーシー大学、初めて講演をしたところ。「ろう文化」や自分のことを知らない人に伝えることはすばらしい経験だった。

ミノル氏 / 学力を高めること、ろう学生との交流、卒業後のネットワーク作りを実現した。

ケリー氏 / 学生生活の一部が、ろうであることを講演してまわること。健聴者が間違った情報を持ってるところを修正することで感謝され尊敬の念を得られる。

司会 / サポートサービスを始めた大学に対するアドバイスは？

ジョーン氏 / 1つは通訳の必要性を感じているので、通訳をたくさん雇ってほしい。2つめは、通訳の質の向上、柔軟性をもってスケジュール対応をしてほしい。その他、ろう者は手話を見ているとノートをかけない。音声認識などの技術でカバーすることが必要。

ミノル氏 / 通訳の数が足りないということだけでなく、ろう学生が満足しているのかどうか確認していく必要がある。

ケリー氏 / 通訳をしっかりと評価すること。数の増加と同時に質の向上。

スラバニア氏 / ろう・難聴者だけでなく、盲ろう学生へのサポートも必要。それは、ASL通訳やチューターだけでなく、点字やテキストの拡大など、盲ろう学生に対応したサービスが必要。

エマニエル氏 / コミュニケーションの促進や、ろう学生のニーズに合わせた通訳との適合。例えば「ろう」と一口でいっても、抽象的な概念は難しいとか、手話は得意だが英語は、苦手など、多様な経歴を有しているので文化への配慮や、ニーズに対応していくことが重要だと思う。また、問題が生じたときに、その場の話をきちんと繋いでいくことを通訳が担っていると思う。

スラバニア氏 / カレッジでの体験。通訳の派遣はコーディネーターに依頼した。コーディネーターは、よく取り計らってくれ、先生に対して通訳と学生が授業にスムーズに入れるように配慮してくれた。

リチャード氏 / 1つは、サポートサービスを受けることでろう学生・障害をもつ学生にハンディにならない。ろうだけでなく他のいろいろな障害者がアクセス出来るサービスがあることが必要ではないか。2つめは、大学にろうプログラムを設けているところでは教員の人選に配慮が必要。例えばハンター大学にろうプログラムがあるが「ろう教員」はいないので「ろう教員」を雇用すること。また通訳が足りない事態にはちゃんと雇用してほしい。